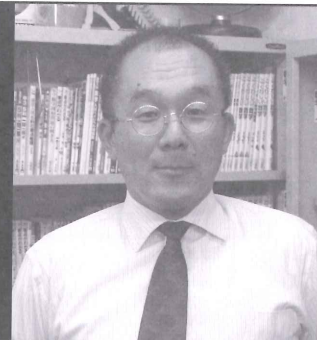


# にしかわ学習塾に学べ!

## SEMINAR セミナーレポート REPORT



にしかわ学習塾(大阪府大阪市西区)

塾長 西川 幸一さん

プロフィール

1961年大阪府堺市生まれ。小学校教員になるために教員免許を取得したものの、学校教育に疑問を抱き、地元の塾に就職。2年後にスカウトされ、大手塾に転職。主に中学受験の算数を担当。自分のしたかったことを実現させるために退職し、にしかわ学習塾を開塾。

### 大阪の人気エリアで開塾10年 大手が真似できない独自の手法で運営

少人数自立学習専門塾のにしかわ学習塾は、大阪市営地下鉄西大橋駅から徒歩5分のビルにある。塾長の西川幸一さんが10年前にこの地に開塾を決めたのは、堀江地域の人気と都心回帰で、転居してくる家族が増えているためだ。現在では子どもの数が増え続けている希少価値の場所である。反面、大手塾も進出している地域でもあるが、同塾では独自の運営と大手間のチラシ戦略が功を奏して、最近ではチラシを出さなくても生徒は集まっている。その独自の運営をレポートした。

#### パソコン学習システムを 主軸に指導

西川塾長は、もともと大手進学塾で中学受験の算数を専門に指導してきたが、管理職になると、会社の考えと自分がやりたいことにギャップが生じ、退職を決意。成績を上げるノウハウには自信があったこともあり、その後は独立して個別指導の学習塾を開業すること。地元の堀江地区での開塾を目指して、周辺地域の主要な塾、近隣の学校のレベルなどを調べた結果、この土地は子ども増加の条件が揃っていると判断できたという。

2003年7月、ビルの2階で少人数制の学習専門塾として、講師は使わず、「吉備システム」のみでスタート。生徒の質問を聞きながら説明をする、という指導法で進めていると、3年目から生徒数が増加。一時は学年も教科も違う50人を超える塾生を一人で管理することになり、授業時には質問の順番を待つ、次の学習指示を待つなど、手持ち無沙汰になる子どもも出てきた。

「吉備システムだけで教えることに無理が出てきました。他社の映像を取り入れましたが、慣れにくると、聞き流してしまう子ども



ビルの2階にある塾舎。入口に立てられているのぼりが目印

も現われ、受け身になってしまいう。様子を見ながら進めましたが、映像は断念しました」

西川塾長は、子どもの集中力を保ち、成績を上げるには、どのシステムを使うとよいか、一人ではどうしても判断が難しいこともあり、話を聞いたり調べたり、日々、研究している。今春からは、子どもが自分で操作をする、インターネットを使った対話型アニメーション教材「すらら」を取り入れた。また、試行錯誤の段階だが、子どもたちの反応はまずまずだ。

学習塾で映像授業を取り入れることは、今や主流となっている。にしかわ学習塾の教室にも、授業用と自習用に子どもが自由に使えるパソコンが、13台設置されている。黒板を使つての集団授業をし

ないのは、「学校と同じことをして繰り返しても仕方がない。学校でできないことや、させたいけれどもできないことのフォローをしていきたいと思っています」と西川塾長は話す。パソコン学習システムを取り入れることで、大手進学塾や学校と差別化を図っているといえる。

●経営のポイント  
大手進学塾や学校ができないシステムを専門的に取り入れる

#### 個別のレベルに応じて システムを組み合わせる

開塾当時から、吉備システムを導入。教材展などで吉備システムの存在は知っていた。一人塾長で開塾するのに強力なツールになると考えていたこともあり、岡山の販売店を訪ねて、直接、システムの使い方の説明を受けたという。

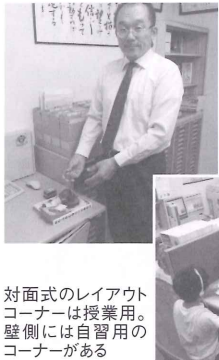
「吉備システムは、豊富な問題数と同じようなレベルの問題でも、少しずつ内容が異なるため、生徒が自立して問題を解けるところが魅力です」

西川塾長は生徒の指導において、吉備システムとすらの組み合わせをどうするか、学校の授業進度を聞きながら、適切な判断を下し

て進めている。ある程度の学力レベルを持つ生徒には、吉備システムのみで学習を進めていく。一方すらは、学校の授業についていくのが厳しい子どもには有効だ。片方だけの生徒もいれば、両方を使いこなす生徒もいる。今では、一人ひとりの理解度に合わせた学習方法だと、生徒・保護者から評判を呼んでいる。

そもそも、勉強が好きなお子どは少ない。西川塾長は、入塾面談で方針を決定するにあたり、生徒が苦手な科目のつまづいた箇所を聞き出し、そこからできるような指導を始め、成績向上へと向かわせていく。「子どもは、したいこととしたくないこと、やるべきこととやらなくていいことの違いがわかっているないので、時間をかけ

化石採集が趣味で、採集した化石は教室内に展示している(写真は和泉層群の二枚貝)。



対面式のレイアウト。コーナーは授業用。壁側には自習用のコーナーがある

#### 時代や子どもに合わせた 指導法

にしかわ学習塾に通塾している

●運営のポイント  
生徒全員の指導教科を統一  
●指導のポイント  
学力レベルに応じて、システムを使い分ける

子どもの大半は、近隣に住む子どもたち。塾周辺は、この10年で、大手、個人、フランチャイズなど、10件以上の学習塾が進出している。大手が参入してくることで、保護者への宣伝となり、ここ数年はチラシを出さなくても、口コミやホームページを見て、生徒が集まってくる。

学習塾経営者の中には、パソコン学習に興味はあっても、その分野に弱い人もいるだろう。西川塾長は「同じような指導をやるなら、変えてみてもいいのでは。やってみて、前のほうがよければ、戻せばいいのです。学習塾は変わり続けなくてはいけないのではないかと、新しい指導法を取り入れることについて話す。

テスト前のにしかわ学習塾は、授業に来る生徒と自習に来る生徒で教室は満席だ。卒業生も頻繁に訪ねてくる。OBたちが参考書を寄付する伝統があり、それらの本は、10数坪の部屋の小さなスペースに、奇麗に並べられている。現在、思うような塾の形式に向けて挑戦中だ。

●経営のポイント  
何もしないでいるよりも変わる。こと。そして、変わり続けながら、塾の形式を確立していくこと